

小さな群れ

カトリック美唄教会

2023年 3月 No.310

2023年2月26日発行

四旬節

Fr.Narciso Cavazzola ofm

先月22日から、四旬節がはじまっています。

四旬節の40日間（日曜日は数えない）は、一年の典礼の頂点である復活祭を目指しての準備期間です。

四旬節に教皇は毎年四旬節メッセージを発表し、その中で四旬節の精神を理解し、回心と愛のわざに生きるように招きます。

また、17日には日本の信徒発見の聖母を祝います。この日は、日本のカトリック教会にとって特別な日、また世界にとっても驚くべき歴史的な日です。この日に教皇は全教会に日本の教会のことを考え、祈るように招いた経緯があります。

この出来事を思い起こしながら、自分自身が大切にしている霊的な価値、人生の目的について、今日考え、祈るように招かれているのではないのでしょうか。

四旬節は「40日の期間」という意味です。40という数はイエスが荒野で40日間断食をしたことに由来していて、それにならって40日の断食という習慣が生まれました。けれども実際には、復活祭の46日前の水曜日（灰の水曜日）から四旬節が始まります。それは、主日（日曜日）には断食をしない習慣だったからです。灰の水曜日に教会では、回心のしるしとして頭か額に灰をかける「灰の式」という典礼があります。

キリスト教が根付いている国では、この灰の水曜日の直前に、「カーニバル（謝肉祭）」というお祭りがあります。古代や中世期の信者たちは四旬節に肉食を断っていたので、その前にごちそうを食べて大いに騒いでいました。その習慣がこんにちまで続いているのですが、教会とは直接関係ありません。

断食については、現在では完全に食事を断つというよりも、十分な食事をひかえることと考えられていて、以下のように「大斎・小斎」があります。大斎と小斎を守る日は灰の水曜日と聖金曜日（復活祭直前の金曜日）、小斎を守る日は祭日を除く毎金曜日です。

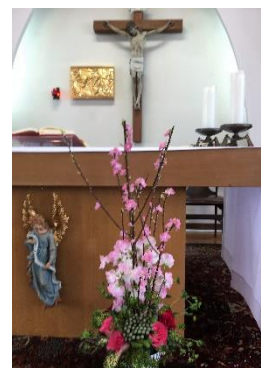
大斎：

1日に1回だけの十分な食事とそのほかに朝ともう1回わずかな食事をとることができ、満18歳以上満60歳未満の信者が守ります。

小斎：

肉類を食べないことですが、各自の判断で償いの他の形式、とくに愛徳のわざ、信心業、節制のわざの実行をもって代えることができ、満14歳以上の信者が守ります。

（大斎も小斎も、病気や妊娠などの理由がある人は免除されます）



主任司祭 ナルチゾ神父

美唄教会 小さな群れ
2023年 3月 No.310
2023年 2月26日発行

2023年3月 主日ミサ・平日のミサ 予定

主日ミサ前 10時30分より十字架の道行を行います

| 日 | 曜 | ミサ | | 各種勉強会 | 会議・その他事項 |
|----|---|---------|----------|-----------|----------|
| | | 主日・祭日 | 時間 | | |
| 3 | 金 | 初金 | 午前 10:30 | ミサ後聖書に親しむ | |
| 5 | 日 | 四旬節第2主日 | 午前 11:00 | | |
| 10 | 金 | | 午前 10:30 | ミサ後聖書に親しむ | |
| 12 | 日 | 四旬節第3主日 | 午前 11:00 | | ミサ後運営委員会 |
| 17 | 金 | | 午前 10:30 | ミサ後聖書に親しむ | |
| 19 | 日 | 四旬節第4主日 | 午前 11:00 | | |
| 24 | 金 | | 午前 10:30 | ミサ後聖書に親しむ | |
| 26 | 日 | 四旬節第5主日 | 午前 9:30 | 黙想会 | |
| 31 | 金 | | 午前 10:30 | ミサ後聖書に親しむ | |

《 平日のミサ 》 **金曜日のみ 午前 10:30** 3・10・17・24・31日です
《 聖書を親しむ 》 平日のミサ後、旧約聖書に親しんでみませんか。

| 霊名の祝日（敬省略） | | 清掃当番 | 花 当番 |
|--------------|------------|-----------|------|
| 1日ダビデ | ウッケンドゥ・ダビデ | 第2週 小川・三間 | 船野 |
| 10日マリアフランシスカ | 村田千津子 | 第4週 中村 | |
| 19日ヨゼフ | 吉村道雄・小山政男 | | |

【お知らせ】

- ◎1月29日 世界こども助け合いの日献金 7,000円
(カリタスジャパンへ送金済み)
- ◎3月26日(日) 9:30より ミサ・黙想会
ミサの前後にゆるしの秘跡を神父様に、お願いして
いますのでお受け下さい。
- ◎3月5日~26日 トルコ・シリア地震募金を行います。
(専用の募金箱を準備します。)

シノドス（世界代表者司教会議）のための

シノドス：ともに歩む道、わたしたちの教会について



シノドス担当者 大城繁子・吉田淳一

私たち美唄教会も 2022 年 2 月から質問票を作りすべての洗礼を受けている方々に手渡し又は送付によって回答をいただき、札幌教区シノドスチームへ 3 月末報告いたしました。

小さなグループをつくり、分かち合いという形をとって話しを聴き、それをまとめて報

告することを勧められていましたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延でそれが叶わず質問形式になり、美唄教会の皆さんにも集計結果をさせていただきました。

2023 年 10 月と 2024 年 10 月の 2 度に渡って開催される「世界代表者司教会議」にむけて、テーマに洗礼を受けた神の民すべてに意見を聞くということは今までなかったことです。この私たち小教区も少人数ながら色々な意見をいただきました。ともに歩む、私たちの教会について意見を出したから終わりではなく、始まりだと思っています。

3 月 13 日以降、マスクを個人判断で自由に着脱できることになりますので、随分緩くなりそうです。顔を合わせてこれについても心に思っている事を話し合ってみませんか。

日本全体の報告書はまとめられ教皇庁シノドスチームへ送付され、2022 年 11 月に日本カトリック司教協議会 菊地大司教様より全世界から集められた文書が送付されました。

「あなたの天幕に場所を広く取りなさい」（イザヤ書 54-2）

大陸ステージのための作業文書〔暫定第 2 版〕

バチカンのシノドス事務局は 114 の司教協議会のうち、112 と 15 の東方典礼カトリック教会すべてからまた男女修道会連盟奉獻生活者の会、使徒職団体、個人やグループから 1000 を超える提出文書が寄せられこれらの資料はあらゆる大陸から集まった非常に多様な専門家グループに配付され、まとめられたものです。

世界的に見ても参加者は予想を上回るものだと委員会は言っています。

この暫定第2版は裏表31ページになるもので配付はしてありませんが、関心のある方は是非ぜひ声をかけて下さい。

札幌教区シノドスは佐久間神父様を委員長として小教区委員の参加のもと、数回にわたり説明会や報告会などが行われています。

直近では2022年12月27日に「あなたの天幕に場所を広く取りなさい」を読んで有志の分かち合いが行われました。内容は翌2023年2月10日に参加された方々の同意のもとで小教区に送付されてきていますが、その中での意見としていくつかを紹介します。

- シノドスの歩みを通して感じるのは、このような分かち合いは安心感あり、わたしたちはつながっていると感じられる機会となる。
- 司祭が少なくなり、集会祭儀が多くなる中、秘跡を行う司祭に来てもらえるだけで感謝を感じる。
- 教会は安心できる場でありたい。
- この大陸文書がどうこうより、まずは札幌教区のシノドスの歩みとして、自分たちの教会の「三つの大切なもの」を深める。
- 分かちあいの習慣がなく、シノドスをうまく進められない。
- 作業文書を読んで、第一に、「教皇様は信徒たちの声に真剣に耳を傾けようとしている」と感じた。
- 「ともに歩んでいく」ために、分かち合いは最も有効な手段といえ、聖書の分かち合いはその代表的なもの。教会の中には分かち合いに慣れておらず、敬遠する人もいるが、一度参加してみるとその良さがを感じ、参加する人たちもいる。

これは裏表4ページの中の一部ですが、私たちの話し合いのきっかけの参考になるのではないのでしょうか。